

新潟県防災教育プログラム

【洪水災害編】

平成26年2月
(平成27年10月※一部データ修正)

目 次

1. 洪水災害編の基本的考え方	3
2. 各教科の洪水災害に関連する授業内容	4
3. 洪水災害編のカリキュラム構成	9
4. 学習指導案【必須学習項目】	11
必須－1 小学校低学年「大雨が降った時の危険性を知る」	12
必須－2 小学校低学年「大雨が降った時の身を守る行動を知る」	14
必須－3 小学校中学年「雨の降り方や洪水について知る」	16
必須－4 小学校中学年「洪水から街を守る対策について知る」	18
必須－5 小学校高学年「洪水に対する日頃からの備えを知る」	20
必須－6 小学校高学年「川からの恵みと災いについて考える」	22
必須－7 小学校高学年「洪水時の具体的な避難方法を考える」	24
必須－8 中学校「避難できない人間の心理を理解する」	26
必須－9 中学校「自然と向き合い、防災に取り組む姿勢を学ぶ」	28
5. モデル校における授業実践の紹介	30

別添：洪水災害編 教職員用副読本
『指導の前に最低限知っておいてほしいこと』

1. 洪水災害編の基本的考え方

近年の地球温暖化等の影響により、気象災害が地球規模でその激しさを増しています。2005年（平成17年）のハリケーン・カトリーナでは、アメリカ合衆国で甚大な被害が生じました。またミャンマーでは2008年（平成20年）のサイクロン・ナルギスにより、死者・行方不明者10万人以上という未曾有の洪水災害が発生しています。

日本でも毎年のように全国各地で洪水災害が発生しています。新潟県においては平成16年及び平成23年の三条市や中之島町（現在の長岡市中之島地域）、見附市を中心として発生した豪雨災害により、多くの被害を受けました。地球温暖化の影響とみられる集中豪雨や巨大台風の増加により、気象災害は今後もその激しさを増していくことが予想されますが、そのような状況においても、新潟県の児童生徒たち、そして地域住民から一人の犠牲者も出さないためには、日頃からの備えが必要不可欠となります。

東日本大震災では、岩手県釜石市において、沿岸部の小中学校生のほぼ全員が自主的に高台に避難して無事だったことから、「釜石の奇跡」として大きく報じられました。釜石市の防災教育は、災害発生のメカニズムや地域の危険性など、災害という自然の“災い”への対処方法を知識として教えるだけでなく、地域や自然の“恵み”についても理解を深め、郷土に対して誇りを持ち、大切に作る気持ちを育むことも併せて行ってきました。『自然の持つ“恵み”と“災い”という二つの側面を理解し、地域に愛着を持ち、そこに住み続けたいからこそ、いざというときにも主体的に自らの命を守りぬく知恵を身につけている』という、このような防災教育を「姿勢の防災教育」と呼びます。

新潟県防災教育プログラム洪水災害編においてもこれを踏襲し、洪水に関する基本的な知識や災害発生時の対応方法に加えて、その実践を促すとともに、想定にとらわれることなく、自ら判断して安全確保を図ることができる「生き抜く力」を養うことを目指しています。

こうした防災教育の基本的な考え方を理解した上で授業を実施していただくために、授業実施前に以下のことを行うようお願いします。

【授業実施前のお願い】

①新潟県防災教育プログラム 教職員用ガイド編「必読！～指導のココロエ～」の確認

⇒新潟県が考える防災教育の基本的な考え方や理念を掲載しています。

②新潟県防災教育プログラム【洪水災害編】別添資料

『指導の前に最低限知っておいてほしいこと』（教職員用副読本）の確認

⇒洪水災害については、被災経験を有する教職員の方が少なからずいます。そのため、その災害経験にとらわれることで、洪水災害のイメージが固定化されてしまうことが懸念されます。洪水災害の状況や避難のあり方は一様ではないことから、授業を実施する前に知っておくべき洪水災害の基礎知識をまとめています。

③地域の素材・資料の収集（自校化の推奨）

⇒洪水災害は、地域の特性によって発生の様子や頻度などが大きく異なります。また地域を題材とすることで、防災教育に対して、児童生徒が「わがこと感」を持って臨むことができます。本書の「4. 学習指導案」及び「5. モデル校における授業実践の紹介」を参考に、地域の素材や資料を活用し、自校化された授業案を作成してください。

2. 各教科の洪水災害に関連する授業内容

各学年の教科の中には、洪水や防災に関連する授業内容があり、これらの単元の中でも防災教育を実施することができます。児童生徒にとっては洪水災害に関する内容を様々な場面で繰り返し学ぶこととなり、教育的効果も高まります。

そのための参考情報として、三条市の教育カリキュラムにおける各教科の洪水災害に関連する単元または授業内容を以下に掲載します。

【小学校全学年共通】

教科	関連させた指導方法案
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・読書についての発展学習で、洪水に関する図書を読む。 ・洪水関連図書を読み、作文活動や感想を書く。 ・レポートを書く学習で、洪水や防災を題材とする。 ・洪水や防災をテーマとした新聞づくり。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・ニュースの和訳・英訳 ・英語版マニュアルづくり
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・生命の尊厳 ・郷土愛
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・防災ポスターづくり ・避難経路図づくり
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水パンフレット、防災マップづくり ・体験者からの聞き取り、地域の洪水被害調査 ・演劇
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練 ・長期休み前の注意

【小学校低学年】

教科	単元	関連させた指導方法案
生活 (1年)	みんなともだち なつのおそび	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の気候や、土や水、雨などを利用して、遊びを工夫することができる。
生活 (1年)	安全な歩き方	<ul style="list-style-type: none"> ・公園までの道を歩き、危険な場所や、安全を守ってくれる人々や施設などの存在に気づく。
生活 (1, 2年)		<ul style="list-style-type: none"> ・学校内の安全な場所、危険な場所を知る。 ・避難訓練について知る。
生活 (2年)	地域への愛着 身近な自然とのふれあい	【校外学習】 <ul style="list-style-type: none"> ・公園で遊んで、普段の遊び場との違いに気づく。 ・動物園で動物と触れ合い、命の温かさに触れ、生命を大事にしようとする心情を高める。
生活 (2年)	夏野菜を育てよう	<ul style="list-style-type: none"> ・観察を通し、植物の成長に雨や水が必要なことを理解する。
体育 (1年)	水遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・プールの使い方や決まりを守ることができる。 ・水遊びの楽しさと水の危険を知ることができる。
体育 (2年)	水泳	<ul style="list-style-type: none"> ・安全な水遊び。 ・水遊びを通して、水に慣れ、楽しく活動する。

教科	単元	関連させた指導方法案
体育 (2年)	着衣泳	・着衣での水中体験を通して、水難事故への対応を学ぶ。
道徳 (2年)	安全な生活	・合い言葉「いかのおすし」の内容について、場面を想像し、自己の経験と比べながら言葉の意味を理解する。
下校指導 (1年)	雨の日の安全な下校	・用水に近づかない。

【小学校中学年】

教科	単元	関連させた指導方法案
社会 (3年)	調べよう。物を作る仕事 ～刃物や金物を作る仕事～	・三条和釘の始まりと五十嵐川の関係を知る。
社会 (3年)	もっと知りたいみんなのまち ～わたしたちの市の様子～	・五十嵐川の様子を知る。「三条の生活を支え、発展させてきた川であると同時に、度重なる洪水は人々を苦しめてきた」ということを教える。
社会 (3年)	もっと知りたいみんなのまち ～わたしの町はどんな町～	・避難場所や避難経路、石碑などの確認。 ・白地図。
社会 (3年)	さぐってみよう昔の暮らし ～まちの人たちが受けつぐ行事～	・過去の洪水による被害の様子を教える。
社会 (3,4年)		・水道水のしくみについて知る。
社会 (3,4年)		・街歩きをして、地域の危険箇所や避難場所を知る。
社会 (3,4年)		・新潟県の災害の特徴を知る。
社会 (4年)	安全な暮らしとまちづくり ～火事を防ぎ、地震に備える～	・消防署の仕組みを調べる。 ・洪水の際の消防士の役割について調べる。 ・地域の人々の諸活動（消防団、自主防災組織など）を調べる。
社会 (4年)	健康な暮らしとまちづくり ～水はどこから～	・水道水の用途や量、届くまでの経路と水資源を確保するための取組などを調べ、水と生活が密接に結びついていることを理解する。
社会 (4年)	わたしたちの県のまちづくり ～自然環境を活かしたまちづくり～	・水不足や洪水など、自然災害から生活を守ってきた低地の人々の工夫について学ぶ。
社会 (4年)	わたしたちの県のまちづくり ～県の地図を広げて～	・信濃川と五十嵐川の流れの様子から洪水が多いことを教える。 ・ダム建設について。
社会 (4年)	昔から今へとつづくまちづくり ～地域の発展につくした人々～	・松尾与十郎が嵐南の生活を守るために堤防づくりに尽力したことを学ぶ。
国語 (3年)	よい聞き手になろう	・水害を体験した人の話を聞く。
国語 (3年)	用件や気持ちが伝わるように書こう	・感想やお礼の手紙を書く。
国語 (3年)	調べたことをほうこくする文章を書こう	・洪水に関する文章を例として用いる。

新潟県防災教育プログラム【洪水災害編】

教科	単元	関連させた指導方法案
国語 (3年)	新聞のとくちょうと作り方を 知ろう	・洪水に関する記事を例として用いる。
算数 (4年)	時刻と時間	・洪水の流れる速さを用いて、単位の変換に関する 問題を作る。
算数 (4年)	長いものの長さのはかり方	・川の長さや浸水の高さをを用いて単位の変換に 関する問題を作る。
理科 (4年)		・降水量について知る。

【小学校高学年】

教科	単元	関連させた指導方法案
社会 (5年)	国土を守る	・日本の災害の特徴を知る。
社会 (5年)		・天気予報について知る。 ・気象警報／注意報について知る。 ・避難情報について知る。
社会 (5年)	大昔の暮らし	・「狩りや漁をしていたころの様子」や「米作りが 広まったころの様子」を見て、人々の様子や周囲 の様子を読み取る。
社会 (5年)		・災害復旧、災害復興について知る。
社会 (5年)	身近な暮らしと政治	・住民の願いとそれを実現する政治の働きについて、 関心をもって調べる。 ・公共施設にはどのようなものがあるかについて、 教科書や地域の見学から調べる。
国語 (5年)	ニュース番組作りの現場から	・防災訓練特集のニュースを作る。
国語 (5年)	新聞を読もう	・新聞の編集、記事の書き方等の資料の一つとして 「洪水」を選択する。
国語 (5年)	百年後のふるさとを守る	・伝記を読んで、自分の地域の防災事業や対策を 考える。
国語 (5年)	天気を予想する	・「洪水」を一つのテーマとして取り組む。
国語 (6年)	ようこそ、私たちの町へ	・「町のよさを伝える」ための、パンフレットを作 成する。
理科 (5年)	流れる水のはたらき	・流れる水の働きを知る。 ・氾濫によって、肥沃な土地ができることを知る。
理科 (5年)	台風の接近	・台風について知る。
理科 (5年)	流れる水のはたらき	・扇状地や平野の成り立ちについて知る。
理科 (6年)	生物のくらしと環境	・生物は食べ物・水及び空気を通して、周囲の環境 とかかわって生きていることがわかる。

教科	単元	関連させた指導方法案
理科 (6年)	人と環境	・人と空気、水、植物のかかわりについて、資料を探したり、調べたりしてまとめ、記録することができる。
理科 (6年)	大地のつくりと変化	・身のまわりの土地やその中に含まれるもの、土地の変化、土地の変化と自然災害との関係などに興味・関心をもち、自ら土地のつくりと変化のきまりを調べようとする。
体育 (6年)	着衣水泳	・服を着たまま水に入ってしまった場合の対処の仕方や救助の仕方を学ぶ。
図工 (6年)	わたしのお気に入りの場所	・感じたことや表したいことをもとに描画材料を選んで、自分なりの表し方で工夫して描く。

【中学校全学年共通】

教科	関連させた指導方法案
国語	・災害に関するニュースを読み、災害をテーマにグループディスカッションを行う。 ・家庭での防災対策をテーマにした提案を考える。 ・洪水や防災をテーマとした新聞づくり。
英語	・自然災害に関する英単語とその用法。 ・避難指示に関する英語表現。 ・避難している人たちへ的確に伝えるための例文。
道徳	・命の重さ、大切さ、尊さ。
美術	・危険箇所マーク・標識づくり、防災ポスターづくり。
保健体育	・集団行動、着衣水泳、救助法、プール清掃時に水の中を歩く体験、バケツリレー、心肺蘇生の手順。 ・欲求不満やストレスへの対処、自然災害への備え、応急手当、健康の成り立ち。
技術 家庭	・手回し発電機による充電式LEDライト付ラジオの製作。 ・避難に関する情報についての的確に判断し行動する。 ・避難場所で必要なものは何か。 快適な生活空間。お年寄りや体の不自由な方々のための食事。頭巾などの制作。
総合	・洪水パンフレット、防災マップづくり。 ・体験者からの聞き取り、地域の洪水被害調査。 ・地域の産業と自然（災害）とのかかわり。
特別活動	・避難訓練。

【中学校1学年】

教科	単元	関連させた指導方法案
社会 (地理)	災害などの環境問題を調べる	・バングラデシュは、川が多く流れる三角州に位置しているため、雨期には水かさが増して国土が水に覆われる。
社会 (地理)	日本列島の自然災害	・日本の災害の特徴を知る。
理科		・流水のはたらき
数学	関数	・1時間に○○mmの割合で○時間雨が降ると、降水量はいくらになるか。

【中学校 2 学年】

教科	単元	関連させた指導方法案
社会 (地理)	資源とエネルギー	・水資源の活用、水力発電。
社会 (地理)	雪に育まれた伝統産業	・用水路や排水設備の整備、水田単作地帯。
社会 (地理)	短くて急な日本の河川	・日本の川は世界の川と比べて急流。 ・ダムは洪水及び下流の海岸の浸食を防ぐ。
社会 (地理)	四季のあるモンスーン	・日本の多くの地域は、年間を通じて降水量が多い温暖湿潤気候に属する。 ・台風やモンスーンについて。
社会 (地理)	火山とともに暮らす	・洪水ハザードマップの作成について。 ・安全意識の向上、日頃からの備え。
社会 (地理)	米作りの条件整備	・越後平野が水田単作地帯となった理由。
社会 (地理)	身近な地域	・地域の危険性を知る。
社会 (地理)	豊かな自然を生かした観光	・洪水ハザードマップの活用。
社会 (地理)	自然のもたらす災害を克服する	・洪水と治水対策。 ・気候災害。
社会 (地理)	多様な環境に恵まれた地域 (九州)	・温暖な気候と台風。
理科		・大気をめぐる水、天気の変化、日本の天気。

【中学校 3 学年】

教科	単元	関連させた指導方法案
社会 (公民)	国際社会が抱える課題	・「持続可能な発展」 先進工業国を中心に進められた経済の開発・発展は、かつてないほどの豊かな社会を実現しました。しかし、そのために、世界的な経済格差や環境破壊と資源の減少が進みました。 ・「持続可能な未来のために」 持続可能性を妨げるもの（環境、災害など）
社会 (公民)	「生命の星」地球を守るために 地球温暖化とその影響	・地球全体の温度が上昇→世界各地で気候が変動し、台風や豪雨が増える一方、干ばつによって食料や水が不足する地域が出ている。
社会 (公民)	防災コミュニティづくり	・地域で行う防災活動について知る。
理科	自然と人間	・自然の恵みと災害の関係について理解を深める。 ・水をめぐるとりあい。 ・自然、洪水。

3. 洪水災害編のカリキュラム構成

新潟県防災教育プログラム洪水災害編におけるカリキュラム構成は、以下のとおりです。

	小学校			中学校
	低学年（1・2年生）	中学年（3・4年生）	高学年（5・6年生）	
必須学習項目	必須-1 大雨が降った時の危険性を知る ・大雨が降った時の状況を考える。 ・大雨が降った時の身を守るための行動を知る。	必須-3 雨の降り方や洪水について知る ・雨が多く降る季節と洪水が起きる理由を知る。 ・大雨の時、洪水の他に起こる現象を知る。	必須-5 洪水に対する日頃からの備えを知る ・洪水ハザードマップの意味と使い方を知る。 ・日頃から備えておくべきことを考える。 津波避難三原則【想定にとられるな】	必須-7 洪水時の具体的な避難方法を考える ・洪水時の危険性と避難することの重要性を理解する。 ・状況に応じた具体的な避難方法を考える。
	必須-2 大雨が降った時の身を守る行動を知る ・大雨で洪水が発生した時の危険性を知る。 ・大雨が降った時の避難方法について理解を深める。 津波避難三原則【最善を尽くせ】	必須-4 洪水から街を守る対策について知る ・洪水から街を守るための対策（堤防やダム等）を知る。 ・洪水ハザードマップを用いて避難先を調べる。	必須-6 川からの恵みと災いについて考える ・新潟県内の過去の洪水災害を知る。 ・川の恵みについて考え、自然と共存することを学ぶ。	必須-8 避難できない人間の心理を理解する ・洪水時の危険性と避難することの重要性を理解する。 ・状況に応じた具体的な避難方法を考える。 津波避難三原則【率先避難者たれ】
				必須-9 自然と向き合い、防災に取り組む姿勢を学ぶ ・先人が自然（川・雨）と共存してきたことを学ぶ。 ・郷土を大切に思う気持ちと防災の姿勢をつなげる。

■参考：洪水災害編の各授業で教える学習テーマ

学習テーマ	小学校低学年		小学校中学年		小学校高学年		中学生
	必-1	必-2	必-3	必-4	必-5	必-6	
①自然（川）の恵みについて知る	△			△		◎	必-9
②地域の危険性について知る	◎	○					
③洪水災害に関する現象について理解を深める			◎	○			
④災害からの避難方法について理解を深める	△	◎	○				必-7 必-8
⑤行政による防災対策について知る				◎	○		
⑥私たちが行う防災対策について知る					◎		
地域社会との連携（学校の拠点化）	※地域社会との連携(学校の拠点化)については、資705:(参考資料)第四中学校における洪水避難訓練実施計画と報告を参考にしてください。						


◎：その授業で教える主な内容

○：その授業の導入部等で復習する内容

△：その授業の中で、◎や○の内容と合わせて理解を促す内容

4. 学習指導案【必須学習項目】

必須ー1	小学校 低学年	学習のねらい ～大雨が降った時の危険性を知る～ ○大雨が降った時の状況を考える。 ○大雨が降った時の身を守るための行動を知る。	知る
			考える
			行動する

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【導入】	<p>1. 雨（水）に関心を持たせ、学習のねらいを伝える</p> <p>①雨が降らなかったらどうなるかを考えさせ、「生活に困ることになる」ことを押さえる。</p> <p>②雨がたくさん降ってきたらどうなるかを考えさせ、雨（水）について関心を持たせる。</p> <p>③大雨が降ったときの危険性について学習することを伝える。</p>	<p>■問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨が降らなかったら、困ることはありますか。 <p>■想定される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし ・水がなくなる。水道が使えない。 ・花や野菜が枯れる。 <p>◆資200～217：新潟の恵みを適宜参照</p>  <p>■問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨が降って、困ったことはありますか。 <p>■想定される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びに行けなかった。 ・傘を持っていなくて、びしょ濡れになった。
	<p>2. 大雨が降るとどうなるのかを考えさせる</p> <p>①雨がたくさん降るとどうなるのかを考えさせ、以下のことを教える。</p> <p>1) 「道路が冠水する」「水浸しになる」 （内水氾濫について）</p> <p>2) 「川が溢れる」 「川の水が溢れ、道路と川の境目がわからなくなる」 （外水氾濫について）</p>	<p>■問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨がたくさん降ったらどうなりますか。 <p>■想定される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外に出られない。 ・川が溢れる。

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【展開】	<p>3. 大雨の際にとるべき行動を伝える</p> <p>①大雨が降ったときに、身を守るためにどうしたらよいのかを考えさせ、以下のことを教える。</p> <p>1) 「外で遊んでいないで、すぐに家や学校に帰る」 2) 「近くの大人の指示に従う」</p>	<p>■ 問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨がたくさん降ったら、どうしたらよいでしょうか。 <p>■ 想定される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外に出ない。 ・すぐに帰る。
【まとめ】	<p>4. 学習してわかったことを確認させる</p> <p>①ワークシートに「授業の感想」と「大雨が降ったときにどうしたらよいのか」を書かせて発表させる。</p> <p>②次の授業（必須-2）で「大雨が降った時の危険から身を守る方法を学習する」ことを伝える。</p>	<p>◆ ワークシート01</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><指導ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ○雨が降らないと生活できないけれど、たくさん降ったときには危険があること。 ○大雨が降ったら、すぐに家や学校に帰ること。近くの大人の指示に従うこと。 </div>

参考：板書計画の一例 ◆資600：板書計画必須-1

【質問1】
雨が降らなかったら、何か困ることはありますか？

- ・特になし
- ・水がなくなる
- ・水道が使えない など



生活するのに、困ることになる

【ねらい】
たくさん雨が降ると、何が起るのかを考えよう！

【質問3】
雨がたくさん降ったら、どんなこと起るでしょうか？

- ・外に出られない
- ・川が溢れる など




道路が、水に浸かる

川が、溢れる

【まとめ】
授業を受けた感想をワークシートに書く

- ・○○○
- ・××× など

【質問2】
雨が降って、何か困ったことはありますか？

- ・遊びに行けなくなった
- ・傘を持っていない、びしょ濡れになった など

【質問4】
雨がたくさん降ったら、どうしたらよいでしょうか？

- ・外に出ない
- ・すぐに帰る など

外で遊んでいないで、すぐに家や学校に帰る

近くにいる大人の言うことを聞く

必須ー2	小学校 低学年	学習のねらい ～大雨が降った時の身を守る行動を知る～ ○大雨で洪水が発生した時の危険性を知る。 ○大雨が降った時の避難方法について理解を深める。	知る
			考える
			行動する

■事前の確認


- 本授業は、津波避難三原則の一つ【最善を尽くせ】に対応した内容になっている。この【最善を尽くせ】とは、「状況に応じて、その時とることのできる最も安全な行動をとる」ことを意味している。
- 洪水災害の場合、周辺の状況によって、とるべき対応は異なる。詳細な解説は、教職員用副読本【指導の前に最低限知っておいてほしいこと】38,39ページの津波避難三原則と21ページ以降の「3. 避難方法について」を参照。

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【導入】	<p>1. 大雨の危険性を復習させ、学習のねらいを伝える</p> <p>①大雨が降ったら、街はどうなってしまうのかを復習させ、「道路が水に浸かる」「川が溢れる」ことを押さえる。</p> <p>②大雨が降ったときの身を守るための行動について学習することを伝える。</p>	<p>■問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雨がたくさん降ると、どんなことが起きるでしょうか。 <p>■想定される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路が水に浸かる。 ・川が溢れる。
【展開】	<p>2. 洪水時の危険について考えさせる</p> <p>①大雨で街が浸水している写真（内水氾濫）や浸水時の危険イラストを見せて、次のような危険性があることを伝える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「浸水している中を歩いていると流される」 2) 「マンホールに吸い込まれる」 3) 「切れた電線から漏電する」 <p>②川から水が溢れている写真（外水氾濫）を見せて、「強い流れによって、建物が流される」などの危険性があることを伝える。</p>	<p>◆資218～219：街が浸水する様子（内水氾濫）</p> <p>◆資500：浸水時の危険性</p> <p>■問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路が水に浸かってしまうと、どんな危ないことがあるのでしょうか。 <p>■想定される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おぼれる。 ・流される。 <p>◆資220～223：川が溢れる様子（外水氾濫）</p> <p>■問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川から水が溢れたら、どんな危ないことがあるのでしょうか。 <p>■想定される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家が流される。 <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><指導ポイント></p> <p>○水に浸かったところは、全て同じ高さに見えるが、深い場所や側溝などがわからなくなり、大変危険であること。</p> </div>

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【展開】	<p>3. 大雨の際に注意すべきことを伝える</p> <p>①大雨が降ったときに、身を守るための行動として、以下のことを教える。</p> <p>1) 「水に浸からない高いところにいる」 2) 「外を出歩いたりして、流れる水に近づかない」 3) 「情報に注意する」</p>	<p>■問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大雨が降ったら、どうしたらよいでしょうか。 <p>■想定される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外に出ないで、家にいる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #f8d7da;"> <p><指導ポイント></p> <p>○大雨の時、子どもたちは川の様子を決して見に行かないこと。（資220を使用する際には、よりしっかりと伝えること。）</p> </div>
【まとめ】	<p>4. 学習してわかったことを確認させる</p> <p>①ワークシートに「授業の感想」と「大雨が降ったときにどうしたらよいのか」を書かせて発表させる。</p> <p>②3年生のまちたんけんで「高くて丈夫な建物がどこにあるのかを確認する」ことを伝える。</p>	<p>◆ワークシート02</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #f8d7da;"> <p><指導ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ○大雨が降ったら高いところにいること。 ○流れる水には近づかないこと。 ○情報に注意すること。 </div>

参考：板書計画の一例 ◆資601：板書計画必須-2

【ねらい】
大雨が降ったときに、どのような行動をとればよいのかを考えよう！



【資料218】



【資料219】

【質問1】
道路が水に浸かってしまうと、どんな危ないことがあるでしょうか？

- ・おぼれる
- ・流される など

【復習】
雨がたくさん降ったら、どんなこと起こるでしょうか？

- ・外に出られない
- ・川が溢れる など



【資料231】



【資料220】

【質問3】
大雨が降ってきたら、どうしたらよいでしょうか？

- ・外に出ない
- ・家にいる など

道路が、水に浸かる

川が、溢れる

水の中を歩くと、流される

マンホールに吸い込まれる

切れた電線から漏電する

水に浸からない高いところにいる

外を出歩いたり、流れる水に近づかない

情報に注意する

【質問2】
川から水が溢れたら、どんな危ないことがあるでしょうか？

- ・家が流される など



【資料220】



【資料221】

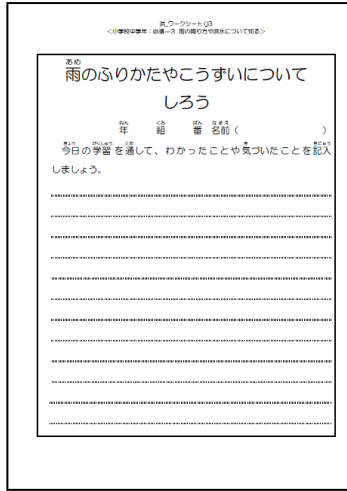
【まとめ】
授業を受けた感想、大雨が降ったときにどうしたらよいかを、ワークシートに書く

- ・○○○
- ・××× など

強い流れで、建物が流される


必須ー3	小学校 中学年	学習のねらい ～雨の降り方や洪水について知る～ ○雨が多く降る季節と洪水が起きる理由を知る。 ○大雨の時、洪水の他に起こる現象を知る。	知る
			考える
			行動する

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【導入】	<p>1. 大雨時の行動を復習させ、学習のねらいを伝える</p> <p>①大雨が降ったときに身を守るための行動を復習させ、「高いところにいる」「流れる水には近づかない」「情報に注意する」ことを確認する。</p> <p>②雨の降り方や洪水について学習することを伝える。</p>	<p>■問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> 大雨が降ったら、身を守るためにどうしたらよいでしょうか。 <p>■想定される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> 高いところにいる。 流れる水には近づかない。 情報に注意する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><指導ポイント></p> <p>○大雨が降ると、街を危険な状況にすることがあること。</p> </div>
	<p>2. 雨の降り方や洪水の特徴について考えさせる</p> <p>①作業を通じて、雨がたくさん降る季節を考えさせ、以下のことを教える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「梅雨があること」 「台風がたくさんやって来る季節があること」 <p>②洪水の起こり方に関するアニメーションを見せ、街が浸水する理由として、以下のことを教える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「小川や側溝が溢れる」 「土地が低いところに水がたまる」 「大きな川が溢れる」 「住んでいる地域に雨が降らなくても、上流で大雨が降ると、大きな川が溢れることがある」 	<p>◆資501-a：月ごとの雨の日の日数 新潟県三条観測所 平均降雨日数（2000年～2011年）</p> <p>◆資501-b：新潟県年間降水量</p> <p>■問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> 雨の日が多いのは、何月でしょうか。 <p>■想定される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> 6月～10月 <p>◆資100-a～100-h：水の流れてみる洪水と対策のしくみ</p>

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【展開】	<p>3. 大雨の際に起こり得ることを教える</p> <p>①大雨が降った場合、洪水の他に起こり得ることを考えさせ、以下のことを教える。 ※発問せずに、板書で説明する。</p> <p>1) 「停電する」 2) 「落雷がある」 3) 「渋滞する」</p>	
【まとめ】	<p>4. 学習してわかったことを確認させる</p> <p>①ワークシートに、授業の感想などを書かせて、発表させる。</p> <p>②雨に注意する季節はいつか、街が浸水する（危険な状況になる）理由は何かを確認する。</p> <p>③次の授業（必須－4）で「洪水から街を守る対策について学習する」ことを伝える。</p>	<p>◆ワークシート03</p> 

参考：板書計画の一例 ◆資602：板書計画必須-3

【ねらい】
街を危険な状況にしてしまう大雨について知ろう！



街が浸水する理由

- 小川や側溝が溢れる
- 土地が低いところに水がたまる
- 大きな川が溢れる

住んでいる場所に雨が降ってなくても、上流で大雨が降ると、大きな川が溢れることがある

【復習】
大雨が降ってきたら、どうしたらよいでしょうか？

- ・外に出ない
- ・家にいる など

- 水に浸からない高いところにいる
- 外を出歩いたり、流れる水に近づかない
- 情報に注意する

【質問1】
雨の日が多いのは、何月でしょう？

・6月から10月

雨がたくさん降る理由

- 梅雨がある
- 台風がたくさんやってくる季節がある

大雨が降った場合、洪水の他に起こること

- 停電する
- 落雷がある
- 渋滞する

【まとめ】
授業を受けた感想などを、ワークシートに書く

- ・○○○
- ・××× など

必須ー4	小学校 中学年	学習のねらい ～洪水から街を守る対策について知る～ ○洪水から街を守るための対策（堤防やダム等）を知る。 ○洪水ハザードマップを用いて避難先を調べる。	知る
			考える
			行動する

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【導入】	<p>1. 洪水の特徴を復習させ、学習のねらいを伝える</p> <p>①街が浸水する理由について復習させ、「小川や側溝が溢れる」「低い土地に水が溜まる」「川が溢れる」ことを確認する。</p> <p>②洪水から街を守る対策について学習することを伝える。</p>	<p>■問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> 大雨が降って、街が水に浸かってしまう理由には、どのようなものがあるのでしょうか。 <p>■想定される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> 小川や側溝が溢れる。 低い土地に水がたまる。 川が溢れる。
【展開】	<p>2. 洪水を防ぐための対策について考えさせる</p> <p>①洪水から街を守るためには、どうしたらよいかを考えさせ、その対策として「堤防やダムがつくられている」ことを伝える。</p> <p>②堤防やダムの写真を見せて、以下のことを教える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「ダムは洪水から街を守るだけでなく、豊かな生活を支えている」 「これらの施設があっても、たくさん雨が降れば、川は溢れることもある」 	<p>■問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> 洪水から街を守るためには、どうしたらよいでしょうか。 <p>■想定される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> 川から水が溢れないようにする。 堤防やダムをつくる。 <p>◆資224～226：ハード対策（堤防ダム）</p> <p>◆資502：わたしたちのくらしと土木の働き（抜粋）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><指導ポイント></p> <p>○ダムで水をためておくことで、1年中、水を使うことができること。</p> <p>○たとえ堤防やダムを造ったとしても、それを超える大雨が降れば、川は溢れること。</p> </div>

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【展開】	<p>3. 洪水に備えて知っておくべきことを教える</p> <p>①川から水が溢れそうな状況を知る方法を考えさせ、「天気予報や市町村からの情報」があることを伝える。</p> <p>②川から水が溢れそうな時にとるべき行動を復習させ、<u>洪水ハザードマップ</u>を用いて、自宅からの避難先を調べさせる。</p>	<p>■問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> 川から水が溢れそうなことを、どうすれば知ることができるでしょうか。 <p>■想定される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> 川を見に行く。 テレビを見る。 <p>◆新潟県ホームページ「<u>県内市町村のハザードマップ</u>」から、市町村のホームページにアクセスして確認することができます。 (http://www.pref.niigata.lg.jp/kasenkanri/1233691_298080.html)</p> <p>◆資489：洪水ハザードマップ浸水深の目安</p>
【まとめ】	<p>4. 学習してわかったことを確認させる</p> <p>①ワークシートに、授業の感想などを書かせて発表させる。</p> <p>②次の授業（必須-5）で「日頃からの洪水への備えについて学習する」ことを伝える。</p>	<p>◆ワークシート04</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><指導ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ○洪水から街を守る対策は、普段の生活の役にも立っていること。 ○川が溢れるような状況になったら、「高いところにいる」「流れる水に近づかない」「情報に注意する」など適切に対応すること。 </div>

参考：板書計画の一例 ◆資603：板書計画必須-4

【復習】
大雨が降ってきて、街が浸水してしまう理由には、どんなものがあったでしょうか？

- ・川が溢れる・低いところに水がたまるなど

小川や側溝が溢れる

土地が低いところに水がたまる


大きな川が溢れる

住んでいる場所に雨が降っていても、上空で大雨が降ると、大きな川が溢れることがある

【ねらい】
洪水から街を守る対策を知ろう！

【質問1】
洪水から街を守るためには、どうしたらよいか？

- ・川から水が溢れないようにする
- ・堤防やダムをつくる



洪水を防ぐ施設の注意点

ダムは洪水から街を守るだけでなく、豊かな生活をささえている

これらの施設があっても、たくさん雨が降れば、川が溢れることもある

【質問2】
川から水が溢れそうなことを、どうすれば知ることができるか？

- ・川を見に行く
- ・テレビを見る

洪水に備えて、日頃からやっておくこと

天気予報や市町村からの情報に注意する

ハザードマップなどで、避難場所を調べておく

【まとめ】
授業を受けた感想などを、ワークシートに書く

- ・○○○
- ・××× など

必須ー5	小学校 高学年	学習のねらい ～洪水に対する日頃からの備えを知る～ ○洪水ハザードマップの意味と使い方を知る。 ○日頃から備えておくべきことを考える。	知る
			考える
			行動する

■事前の確認

- 本授業は、津波避難三原則の一つ【想定にとられるな】に対応した内容になっている。この【想定にとられるな】とは、「相手は自然なのだから、ハザードマップなどに記された想定よりも大きな規模の災害が発生することもあり得る。想定を信じて、『ここまで水は来ない』などと思っはいけない」という意味である。
- 詳細な解説は、教職員用副読本【指導の前に最低限知っておいてほしいこと】38,39ページの津波避難三原則と13ページ以降の「2. 浸水想定について」を参照。

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【導入】	<p>1. 洪水対策を復習させ、学習のねらいを伝える</p> <p>①洪水から街を守る対策とその限界について復習させ、「川から水が溢れないように対策をしているが、それを超えて溢れることもある」ことを伝える。</p> <p>②洪水から身を守るために、私たちが日頃から備えておくことについて学習することを伝える。</p>	<p>■問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洪水から街を守る対策にはどのようなものがあるでしょうか。 <p>■想定される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堤防やダム <p><指導ポイント></p> <p>○いざという時に適切な判断・行動ができるように、日頃から準備しておくこと。</p>
【展開】	<p>2. 洪水について調べるための方法（洪水ハザードマップ）を教える</p> <p>①地域の洪水の危険性や避難場所を知るためにはどうしたらよいのかを考えさせ、<u>洪水ハザードマップ</u>で知ることができることを伝える。</p> <p>② <u>洪水ハザードマップ</u>を用いて、以下のことを教える。</p> <p>1) 「自宅周辺や学校周辺など、地域の洪水の危険性」</p> <p>2) 「自宅周辺や通学路周辺の避難場所」</p> <p>3) 「浸水想定図に示されている深さよりも深い浸水になることもある」</p>	<p>■問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちの住んでいる街には、どのくらいの洪水の危険性があるか知っていますか。 ・日頃からこのような危険性を知るには、どうすればよいですか。 <p>■想定される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本やインターネットで調べる。 ・ハザードマップ <p>◆新潟県ホームページ「<u>県内市町村のハザードマップ</u>」から、市町村のホームページにアクセスして確認することができます。 (http://www.pref.niigata.lg.jp/kasenganri/1233691_298080.html)</p> <p>◆資489：洪水ハザードマップ浸水深の目安</p> <p><指導ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ○洪水ハザードマップには、「浸水想定図」と「避難場所」が記載されていること。 ○浸水想定図は、ある条件のもとで計算された一つのシナリオであって、想定を超える大雨が降れば、それ以上の深さまで浸水することもあり得ること。

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【展開】	<p>3. 日頃から備えておくべきことを考えさせる</p> <p>①いざという時に適切に避難するために、日頃からどんな準備をしておくべきかを考えさせ、以下のことを教える。</p> <p>1) 「すぐに避難できるように、非常持ち出し品を用意しておく」</p> <p>2) 「避難訓練を通じて、避難場所や避難経路を確認しておく」</p>	<p>■ 問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> 洪水に備えて、日頃からどんなことを備えておけばよいでしょうか。 <p>■ 想定される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難場所を確認しておく。 避難するための準備をしておく。 <p>◆ 資503：非常持ち出し品リストの例</p> <p>◆ 資503-a：非常持ち出し品リストの例(ピクトグラム)</p> <p>◆ 資503-b：非常持ち出し品リストの例(ピクトグラム)</p>
【まとめ】	<p>4. 学習してわかったことを確認させる</p> <p>①ワークシートに、授業の感想などを書かせて発表させる。</p> <p>②授業のフォローアップとして、非常持ち出し品について家族と話し合わせたり、非常持ち出し品と決めたものを実際に持ってこさせるなどの宿題を出す。</p>	<p>◆ ワークシート05</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><指導ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ハザードマップはあくまで目安であって、それ以上の災害も起こり得ること。 ○日頃から訓練等を通じて、避難方法を確認しておくこと。 </div>

参考：板書計画の一例 ◆資604：板書計画必須-5

【復習1】
洪水から街を守るためには、どのような対策がありますか？

- ・ダムや堤防
- ・土のう など

洪水を防ぐ施設の注意点

ダムは洪水から街を守るだけでなく、豊かな生活をささえている

これらの施設があっても、たくさん雨が降れば、川が溢れることもある

【復習2】
川から水が溢れそうなことを、どうすれば知ることができるか？

- ・テレビ、ラジオ、メール
- ・市町村の放送 など

【わらい】
洪水から身を守るために、日頃から備えておくべきことを知ろう！

【質問1】
洪水の危険性は、どうやって知ることができるでしょうか？

- ・本やインターネットで調べる
- ・洪水ハザードマップ など

【質問2】
洪水ハザードマップを見ると、何が知ることができるでしょうか？

- ・どこまで水が広がるのか
- ・どのくらいの深さで水がかかるのか
- ・避難場所はどこなのか など

洪水ハザードマップの注意点

浸水想定図に示されている深さよりも深くなることもある！

【質問3】
いざというときに避難するために、日頃からどんな準備をしておくべき？

- ・避難場所、避難ルートを確認しておく
- ・防災グッズを用意する など


【質問4】
非常持出品には、どのようなものを入れておけばよいのだろうか？

- ・水、食料
- ・携帯電話、ラジオ
- ・ライト、電池 など

【まとめ】
授業を受けた感想などを、ワークシートに書く

- ・○○○
- ・××× など

必須ー6	小学校 高学年	学習のねらい ～川からの恵みと災いについて考える～ ○新潟県内の過去の洪水災害を知る。 ○川の恵みについて考え、自然と共存することを学ぶ。	知る
			考える
			行動する

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【導入】	<p>1. 雨の恵みと災いを復習させ、学習のねらいを伝える</p> <p>①大雨が降ると街が被害を受けてしまう一方で、雨が降らないと生活できないことを復習させる。</p> <p>②川からの恵みと災いについて学習することを伝える。</p>	<p>■問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> 大雨が降ると洪水が起こることもありますが、雨が降らなかったら何か困ることはあるでしょうか。 <p>■想定される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> 水が使えない。
【展開】	<p>2. 新潟県内の過去の洪水災害を伝える</p> <p>①近年の<u>全国各地の豪雨災害による被災地の写真等</u>を見せて、新潟県内でもこのようなことが起こったことがあるかを考えさせ、以下のことを教える。</p> <p>1) 「平成23年7月新潟・福島豪雨や平成16年7.13水害」</p> <p>2) 「それ以前にも、新潟県内で何度も水害が発生してきた」</p> <p>3) 「川が近くにあるということは、大雨が降ってきて、街中が浸水してしまう可能性がある」</p>	<p>◆資227～230：全国各地の豪雨災害による被災の様子</p> <p>◆資231～233：平成23年7月新潟・福島豪雨による被害の様子</p> <p>◆資234～236：平成16年7.13水害による被害の様子</p> <p>◆資504：新潟県内で発生した豪雨災害の一覧表</p> <p>■問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> 私たちの住んでいる街は、洪水が発生したことがありますか。また、それはいつでしょうか。 <p>■想定される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成23年7月新潟・福島豪雨 平成16年7.13水害 <div style="text-align: center;">  </div> <p>資231 平成23年7月新潟・福島豪雨</p>

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【展開】	<p>3. 自然と共存する姿勢について考えさせる</p> <p>①「川」がなかった場合、私たちの生活はどうなってしまうのかを考えさせ、「川の恵みによって生活が支えられていることを気にしていなかった」ことを伝える。</p> <p>②川の恵みをあきらめるのと、たまに発生する水害をやり過ごすのは、どちらがよいのかを考えさせ、「自然と共存して生活する姿勢を持つことが必要である」ことを伝える。</p>	<p>◆資200～217：新潟の恵みを適宜参照・活用</p> <p>■問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> 川がなくなったら、私たちの生活はどうなるでしょうか。 <p>■想定される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> 何も変わらない。川はなくてもよい。 生活に必要な水がなくて不便になる。 新潟県の特産品（米、お酒など）がなくなってしまう。 <p>■問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> 「川からの恵みがある生活」と「川の危険性のない生活」、どちらがよいでしょうか。 <p>■想定される答え</p> <p>※正解はないので、児童なりの意見を引き出し、討論させる。</p>
【まとめ】	<p>4. 学習してわかったことを確認させる</p> <p>①ワークシートに、授業の感想などを書かせて発表させる。</p>	<p>◆ワークシート06</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #f0f0f0;"> <p><指導ポイント></p> <p>○自然の恵みを理解し、災いと正しく向かい合うことが大事なこと。</p> </div>

参考：板書計画の一例 ◆資605：板書計画必須-6

【復習1】
雨がたくさん降ったら、どんなこと起こるでしょうか？

- ・道路が水につかる
- ・川が溢れる など

【ねらい】
川からの「恵み」と「災い」について考えよう！

【質問2】
川がなかったら、私たちの生活はどうなると思いますか？

- ・何も変わらない、川はなくてもよい
- ・生活に必要な水がなくて不便になる
- ・新潟県の特産品（米、酒）がなくなる

【復習2】
雨が降らなかったら、何か困ることはありますか？

- ・特になし
- ・水がなくなる
- ・水道が使えない など




川の上に住む私たちが注意すること

大雨が降ってきた場合、街中が浸水してしまう可能性がある

【質問3】
「川からの恵みのある生活」と「川の危険性のない生活」、どちらがよいと思いますか？

【まとめ】
授業を受けた感想などを、ワークシートに書く

- ・○○○
- ・××× など

必須ー7	中学校	学習のねらい ～洪水時の具体的な避難方法を考える～ ○洪水時の危険性と避難することの重要性を理解する。 ○状況に応じた具体的な避難方法を考える。	知る
			考える
			行動する

■事前の確認

○洪水の避難は、状況によって取るべき対応が異なる。本授業の前に、教職員用副読本【指導の前に最低限知っておいてほしいこと】の38,39ページの津波避難三原則や「2. 浸水想定について」（13ページ～）、「3. 避難方法について」（21ページ～）を確認しておく。

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【導入】	<p>1. 避難行動に関心を持たせ、学習のねらいを伝える</p> <p>①平成23年7月新潟・福島豪雨の被害や三条市民の避難行動を紹介し、避難勧告が発表されたにもかかわらず、避難しなかった人が多かったことを伝える。</p> <p>②洪水時の適切な避難方法について学習することを伝える。</p>	<p>◆資231～233：平成23年7月新潟・福島豪雨による被害の様子</p> <p>◆資505：平成23年7月新潟・福島豪雨時の避難状況</p>
	<p>2. 大雨の際の行動について想像させる</p> <p>①一人で自宅にいるとき、大雨によって市から避難勧告が発表された場合、どのような行動をとるかを問いかけ、考えさせる。</p>	<p>■問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人で自宅にいるとき、大雨が降ってきて、市から避難勧告が発表されました。どのような行動をとりますか。 <p>■想定される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> 自宅で家族が帰ってくるのを待つ。 一人でもすぐに避難所に避難する。
【展開】	<p>3. 地域の洪水の危険性と避難方法を考えさせる</p> <p>①洪水ハザードマップを用いて、以下のことを教える。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「自宅周辺や学校周辺など、地域の洪水の危険性」 「自宅周辺や通学路周辺の避難場所」 「浸水想定図に示されている深さよりも深い浸水になることもある」 	<p>◆新潟県ホームページ「<u>県内市町村のハザードマップ</u>」から、市町村のホームページにアクセスして確認することができます。 (http://www.pref.niigata.lg.jp/kasankenri/1233691_298080.html)</p> <p>◆資489：洪水ハザードマップ浸水深の目安</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><指導ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ○洪水ハザードマップには、「浸水想定図」と「避難場所」に関する情報が記載されていること。 ○浸水深の目安から、その地域の実際の浸水深とその危険性を知ることができること。 ○浸水前と後ではとるべき行動が異なること。 ○浸水想定図は、ある条件のもとで計算された一つのシナリオであって、想定を超える大雨が降れば、川は溢れることもあり得ること。 </div>

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【展開】	<p>②洪水時の避難について、注意すべきことを考えさせ、以下のことを教える。</p> <p>1) 「高いところにいる」 2) 「流れる水に近づかない」 3) 「情報に注意する」</p>	<p>■ 問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集中豪雨によって洪水が発生した場合、何に注意をして避難したらよいでしょうか。 <p>■ 想定される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すぐに避難場所に行く。 ・高い場所にとどまる。 ・流れる水に近づかない。 ・水の中を歩かない。
【まとめ】	<p>4. 学習してわかったことを確認させる</p> <p>①ワークシートに、「授業の感想」「避難時、避難先で中学生としてできること」などを書かせて発表させる。</p>	<p>◆ ワークシート07</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #f8d7da;"> <p><指導ポイント></p> <ul style="list-style-type: none"> ○洪水時の避難とは「安全確保のために最善の行動を取る」ということ。 ○率先避難者となって、周辺の人々の避難を促すこと。 ○避難先では、避難所の清掃や避難者の名簿づくりなどに協力すること。 </div>

参考：板書計画の一例 ◆資606：板書計画必須-7



【平成23年7月新潟・福島豪雨】
避難勧告が発表されたのに、
避難しない人も多かった



【質問1】
一人で自宅にいるとき、大雨が降って
きました。あなたはどうしますか？

- ・自宅で家族が帰ってくるのを待つ
- ・一人でもすぐに避難所に行く など

【質問2】
集中豪雨によって洪水が発生した場合、どん
なことに注意して避難したらよいでしょうか？

- ・すぐに避難所に行く
- ・高い場所にとどまる など

【ねらい】
具体的な避難方法を考えよう！

①避難準備情報が発表されたら？

②避難勧告が発表されたら？

③避難指示が発表されたら？

高いところにいる

流れる水に近づかない

情報に注意する

【まとめ】
授業を受けた感想をワークシートに
書く

- ・○○○
- ・××× など

必須ー8	中学校	学習のねらい ～避難できない人間の心理を理解する～ ○洪水時の危険性と避難することの重要性を理解する。 ○状況に応じた具体的な避難方法を考える。	知る
			考える
			行動する

■事前の確認

- 本授業は、津波避難三原則の一つ【**率先避難者たれ**】に対応した内容になっています。【**率先避難者たれ**】とは、「まずは自分の命を守るために最善を尽くせ」という意味です。人は災害時に簡単には逃げられません。しかし、避難している人を見ると、つられて避難することができます。
- 詳細な解説は、教職員用副読本【**指導の前に最低限知っておいてほしいこと**】の「4. 避難できない人間の心理について」（35ページ～）を参照してください。

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【導入】	<p>1. 避難の重要性を復習させ、学習のねらいを伝える</p> <p>①大雨が降った場合には、自らの身を守るために適切な対応をとる必要があることを復習させる。</p> <p>②大雨が降ったときのことを振り返らせ、「避難しようと考えたことはあるけれど、実際に避難したことはない」という生徒がどの程度いるかを確認する。</p> <p>③非常ベルが鳴ったときの行動などを例にして、以下のことを教える。</p> <p>1) 「非常ベルが鳴る＝火事が起きている」ことはみんな知っている。</p> <p>2) 「前にも誤報があった」「みんな逃げない」「本当に逃げなければならないときは先生が知らせてくれる」などと理由をつけて、すぐに避難するという行動をとれる人はほとんどいない。</p> <p>④「なぜ人は避難できないのか」「危なくなったら逃げるといことは誰でもわかっているが、本当に逃げられるのか」という人間の心理について学習することを伝える。</p>	<p>※板書計画案は、資607：板書計画必須ー8を参照</p> <p>■問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大雨が降ったとき、避難したことはありますか。または避難しようと考えたことはありますか。 <p>■想定される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成23年や平成16年のように、実際に水害が発生した時は避難した。 ・避難しようとは考えたことがある（しかし避難はしていない）。 <p>■問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今、ここ（教室）で非常ベルが鳴ったら、どうしますか。 <p>■想定される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無視する。（何かの間違いだろう。いたずらではないか。） ・周りを見渡して、みんなが避難するようなら避難する。 ・先生の指示を待つ。 ・すぐに避難する。

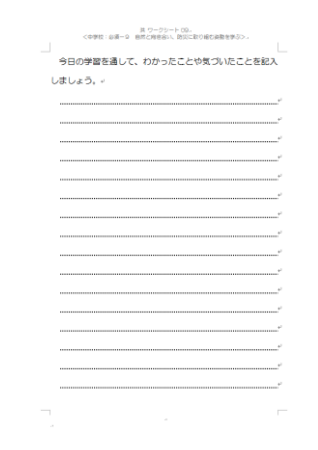
	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【展開】	<p>2. 避難行動を阻害する人間の心理特性について理解させる</p> <p>①平成23年7月新潟・福島豪雨時の三条市民の避難行動を紹介し、避難勧告が発表されたにもかかわらず、避難しなかった人が多かった理由を考えさせる。</p> <p>②避難できない人間の心理特性として、以下のことを教える。</p> <p>【正常化の偏見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思いこみによって、非常事態であるという認識に頭が切り替わらないこと。 <p>【集団同調性バイアス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多数意見が正しいと思い込むこと。 <p>【経験にとらわれる】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去に大丈夫だった経験があると、次も大丈夫だと判断してしまうこと。 	<p>◆資505：平成23年7月新潟・福島豪雨時の避難状況</p> <p>■問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難勧告が発表されていたのに多くの住民が避難しなかった理由は何だと思いますか。 <p>■想定される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大したことはないだろうと思ったから。 ・自分は大丈夫だと考えたから。 ・みんなも避難していなかったから。 ・前の水害時にもここまで水は来なかったから。 <p>◆資506：避難できない人間の心理特性</p>
	<p>3. 避難するためにできることを考えさせる</p> <p>①これらの心理特性が私たちにもあてはまることを伝え、どうすれば避難できるのかを考えさせて、以下のことを教える。</p> <p>1) 「誰かが避難すれば、周りのみんなも避難することができる」</p> <p>2) 「想定や経験にとらわれずに、最悪の状況を考えて行動すればよい」</p> <p>②周りのみんなを避難させるために、中学生にできることとして、「私たちのそれぞれが率先避難者（まず先に避難する人）になることを心がける」ことを教える。</p>	<p>■問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうしたら避難することができると思いますか。 <p>■想定される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の心に勝つ。 ・まだ大丈夫と思わずに、とにかく避難する。 <p>■問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りのみんなを避難させるために、中学生にできることは何だと思いますか。 <p>■想定される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難の声かけをする。 ・日頃から注意を促すような活動をする。 ・とにかく避難する。
【まとめ】	<p>4. 学習してわかったことを確認させる</p> <p>①ワークシートに、授業の感想などを書かせて発表させる</p>	<p>◆ワークシート08</p> <p>＜指導ポイント＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○避難することができない人間の心理を理解した上で、まずは自分が避難すること。 ○それがみんなのためにもなること。

必須ー9	中学校	学習のねらい ～自然と向き合い、防災に取り組む姿勢を学ぶ～ ○先人が自然（川・雨）と共存してきたことを学ぶ。 ○郷土を大切に思う気持ちと防災の姿勢をつなげる。	知る
			考える
			行動する

■事前の確認

- 本授業は、防災教育の総まとめとして、自然や郷土との向き合い方について考える内容である。生徒が興味や関心を示すように、身近な自然や郷土の資料を収集しておく。例えば、個人で撮影した写真、各市町村から提供してもらった資料、小中学校の学習資料、インターネットから入手したものなどがある。
- 学習内容の【展開】2. ①先人の住まい（遺跡）の資料については、各市町村または最寄りの資料館や博物館等に問い合わせる。

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【導入】	<p>1. 過去の洪水災害を復習させ、学習のねらいを伝える</p> <p>①資料を用いて、<u>平成16年7.13水害の被害の様子</u>を解説する。</p> <p>②新潟県内で発生した豪雨災害の一覧表を用いて、過去（明治初頭）から現在までに何度となく水害を経験してきたことを復習させる。</p> <p>③自然と向き合い、主体的に（自分事として）防災に取り組むということについて学習すると伝える。</p>	<p>◆資234～236：平成16年7.13水害による被害の様子</p> <p>◆資507：平成16年7.13水害による被害状況</p> <p>◆資504：新潟県内で発生した豪雨災害の一覧表</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><指導ポイント></p> <p>○先人は、災害（水害）による被害を受けながらも、自然と共存して暮らしてきたこと。</p> </div>
【展開】	<p>2. 過去と現在の住まい方の違いについて考えさせる （三条市下田地区の場合）</p> <p>①<u>三条市下田地区の遺跡地図</u>を見せ、先人はどのような場所に住んでいたのかを考えさせ、以下のことを教える。</p> <p>1) 「遺跡は川の近くにはあるが、河岸段丘の上にある」</p> <p>2) 「先人は、生活する上で水が必要であるが、その危険性も回避できる最適な場所で生活していた」</p> <p>②<u>世界の都市の河川水位図</u>を見せ、現代人はどのような場所に住んでいるのかを考えさせ、以下のことを教える。</p> <p>1) 「川の水位より低いところに街が形成されている」</p> <p>2) 「堤防やダムによって、人為的につくられた安全のもとで生活している」</p>	<p>◆資508：下田地区の遺跡地図</p> <p>※遺跡の場所や過去の居住地域が分かる地域の資料を活用する。</p> <p>■問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> 先人はどのような場所に住んでいたでしょうか。 <p>■想定される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> 川の近く 高い場所 <p>◆資509：世界の都市の河川水位</p> <p>■問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> 私たちの街はどのような場所にありますか。 <p>■想定される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> 川の近く 川より低い場所

	学習内容（展開例）	指導ポイント・使用資料
【展開】	<p>3. 郷土を大切に思う気持ちについて考えさせる</p> <p>①災害が多発する地域に住み続ける人々の思いや心情を考えさせ、生まれ育った郷土を思う気持ちの大切さを伝えるよう促す。</p> <p>②郷土と郷土に生きる人々を守っていくために、防災の視点から今できることと将来できることを考えさせる。</p>	<p>■問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、災害が多発する地域に住み続けるのでしょうか。 <p>■想定される答え</p> <p>※正解はないので、生徒なりの意見で引き出し、討論させる。</p> <p>■問いかけの例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたがこの地域で、自然災害から守りたいものは何ですか。またそのために、今できること、将来できることは何ですか。 <p>■想定される答え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在：防災、減災についてしっかり学ぶ。 ・将来：消防団に入って、地域防災に努める。
【まとめ】	<p>4. 学習してわかったことを確認する</p> <p>①ワークシートに、授業の感想などを書かせて発表させる。</p>	<p>◆ワークシート09</p>  <p>＜指導ポイント＞</p> <p>○人々が災害に向き合う気持ちを理解し、自ら防災に取り組むという意志を持つこと。</p>

参考：板書計画等について

※本授業の板書計画については、資703：第四中学校授業研究会要項に掲載されている板書計画、または本書34頁の授業実践の写真を参考にしてください。

※本授業の後に実践を伴う授業（避難訓練や地域行事など）を行うことで、防災教育の効果がさらに高まることが期待されます。

◆三條市立第四中学校での授業実践（平成25年度第2回三條市防災教育授業研究会）

- 日時：平成25年7月22日（月）14:00～14:50（公開授業の後、意見交換会）
- 会場：三條市立第四中学校
- 学年：1年生で1時間、2年生で1時間



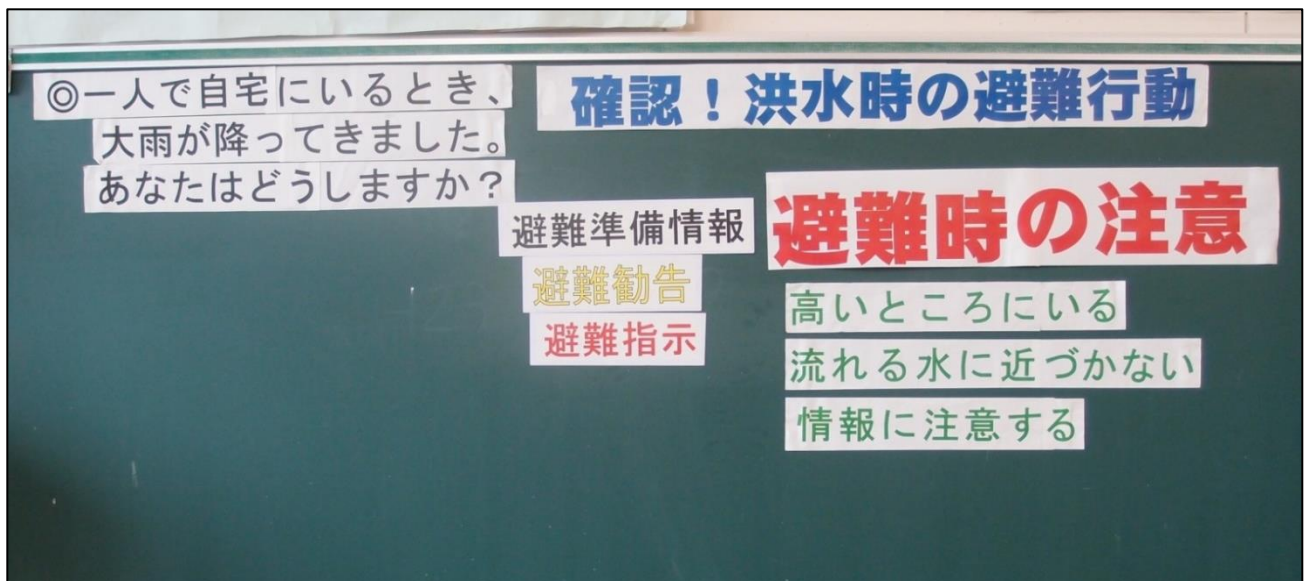
■中学1年生

【必須－7：小学校の内容を総復習する】

三條市の水害の映像や写真を用いて、洪水による浸水前後の様子の違いを説明し、浸水前と後でどのような行動を取るべきなのかを考えさせました。その後に洪水ハザードマップを使って、自宅や避難所の位置と、想定される浸水深を確認し、浸水前と後で取るべき行動について確認しました。

※授業の詳細については、[資702：第四中学校授業研究会要項](#)を参照

三條市立第四中学校 公開授業【必須－7：小学校の内容を総復習する】板書





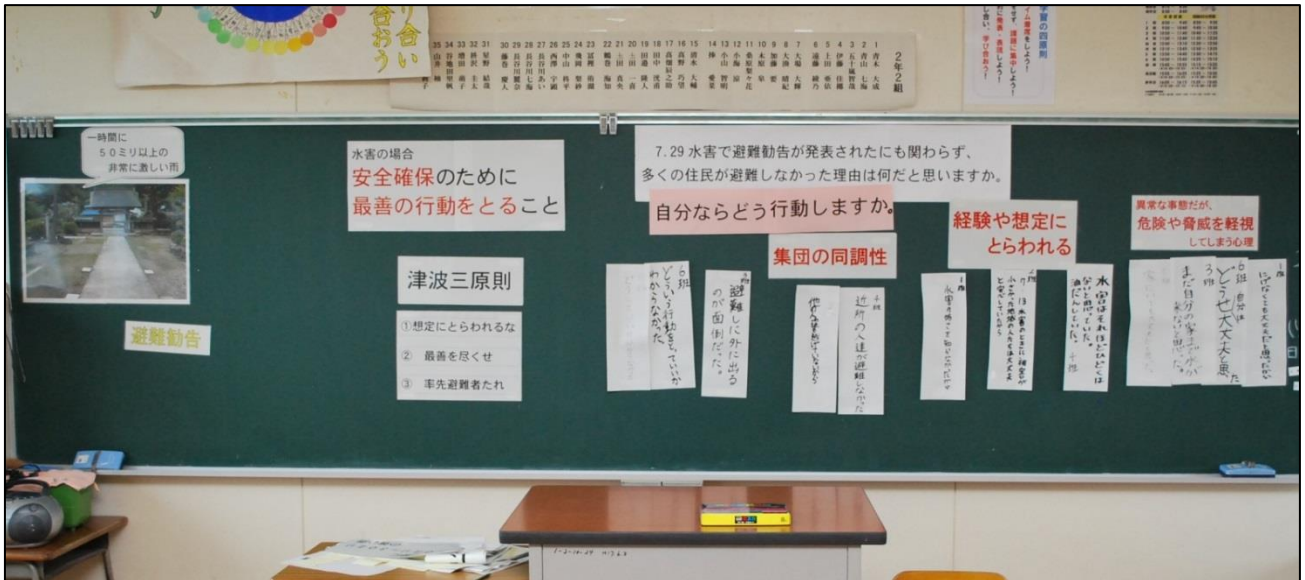
■ 中学2年生

【必須－8：避難できない人間の心理を理解する】

洪水の時の地域の写真を見せて、その時の状況を振り返らせ、避難勧告が出ていたにもかかわらず、多くの三条市民は避難をしなかった理由について考えさせました。その後、避難行動を阻害する人間の心理特性について説明し、水害の時は安全確保のための最善の行動を取ることが大事であることを確認しました。

※授業の詳細については、[資702：第四中学校授業研究会要項](#)を参照

三条市立第四中学校 公開授業【必須－8：避難できない人間の心理を理解する】板書



◆三條市立旭小学校での授業実践（平成25年度第3回三條市防災教育授業研究会）

- 日時：平成25年11月14日（木）14:00～14:45（公開授業の後、意見交換会）
- 会場：三條市立旭小学校
- 学年：高学年（5・6年生）合同で1時間

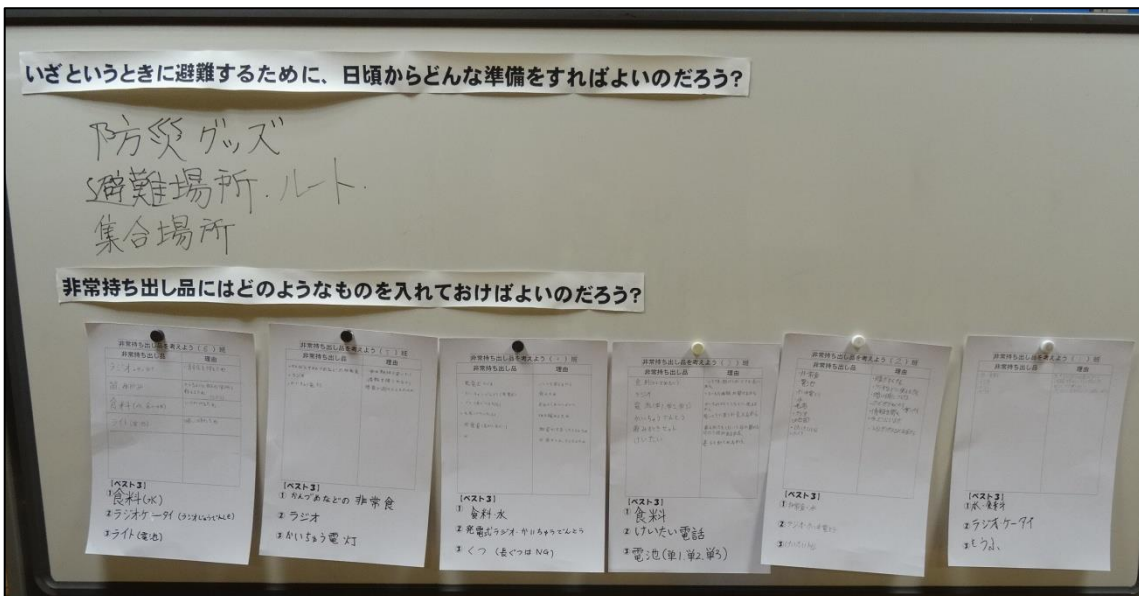
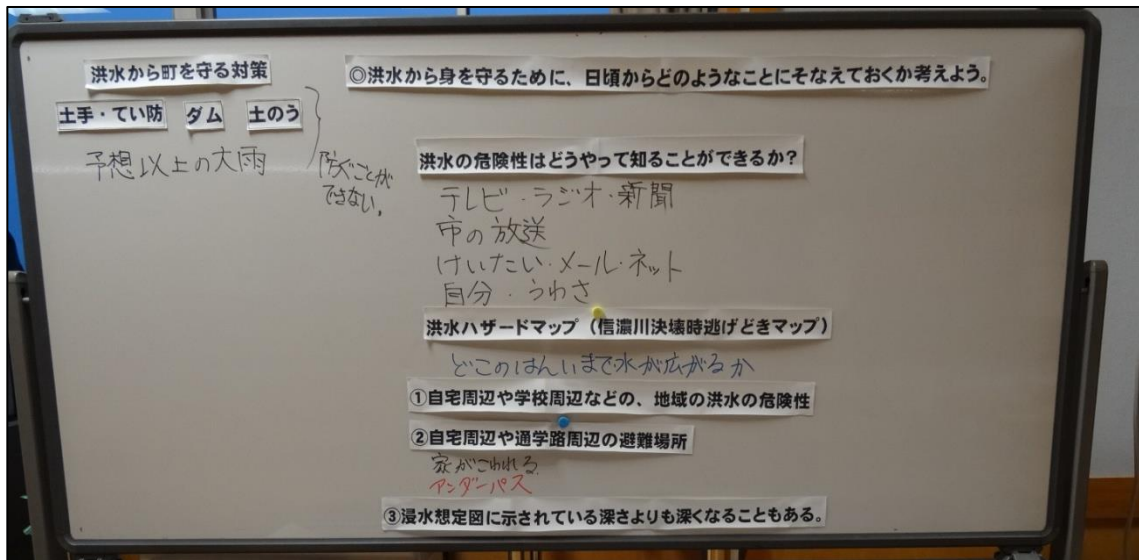


■小学校高学年（5・6年生）合同
【必須－5：洪水に対する日頃からの備えを知る】

洪水から街を守る対策について復習し、対策を行ったとしても災害が起こることがあることを伝えました。その上で洪水ハザードマップを使って、自宅や学校周辺の危険性や避難場所を確認するとともに、持ち出し袋の中身についてもグループで議論をさせました。

※授業の詳細については、**資701：旭小学校授業研究会要項**を参照

三條市立旭小学校 公開授業【必須－5：洪水に対する日頃からの備えを知る】板書



◆三條市立第四中学校での授業実践（平成25年度第4回三條市防災教育授業研究会）

- 日時：平成25年11月29日（金）14:00～14:50（公開授業の後、意見交換会）
- 会場：三條市立第四中学校
- 学年：3年生



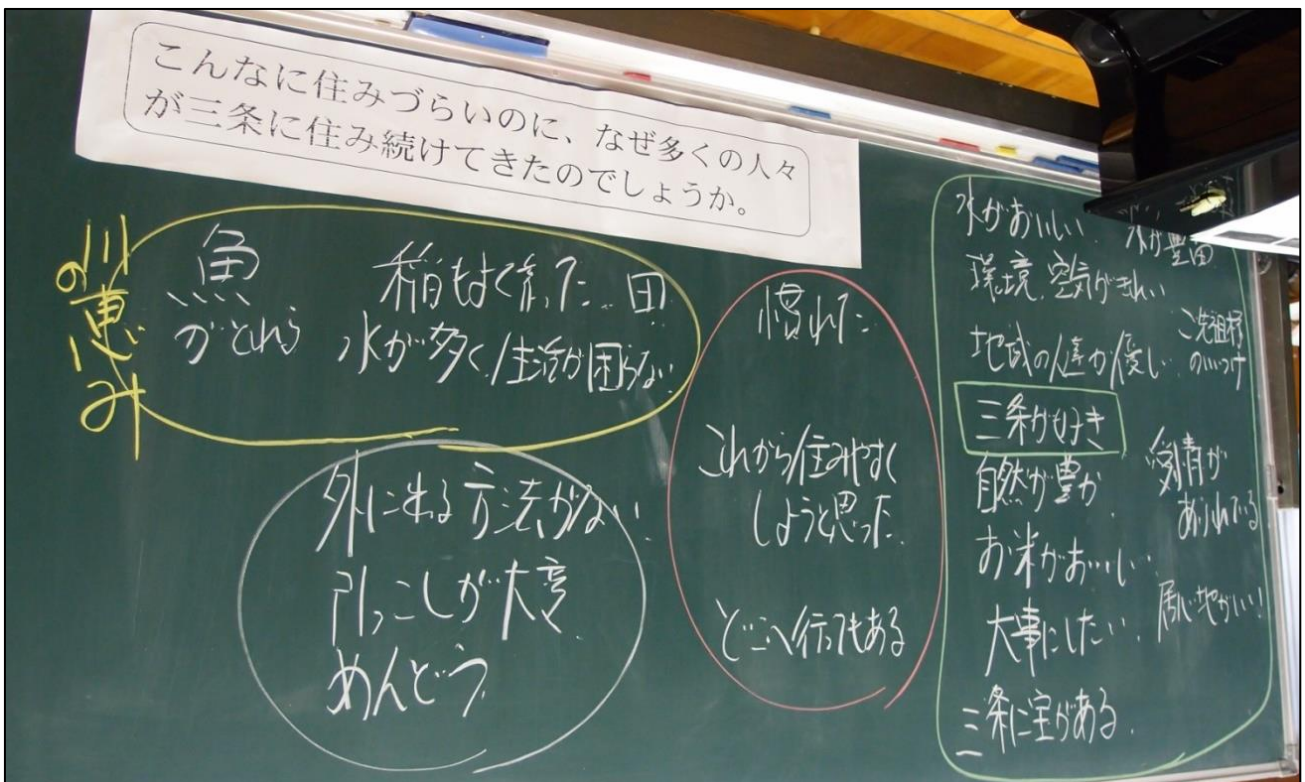
■ 中学3年生

【必須－9：自然と向き合い、
防災に取り組む姿勢を学ぶ】

三條の地名の由来について説明し、水と川に深い繋がりのある地域であり、洪水が多い地域でもあることを伝えました。その上で、なぜこの三條市に多くの人々が住み続けてきたのかを、先人の努力や功績と結びつけて考えさせました。そして、三條市に住み続けるために今できること、将来できることを考えさせました。

※授業の詳細については、[資703：第四中学校授業研究会要項](#)を参照

三條市立第四中学校 公開授業【必須－9：自然と向き合い、防災に取り組む姿勢を学ぶ】板書



新潟県防災教育プログラム洪水災害編の制作について

新潟県防災教育プログラム洪水災害編の制作にあたっては、新潟県三条市の小中学校からモデル校を選定するとともに、群馬大学大学院片田敏孝教授を座長（同大学院金井昌信准教授を座長補佐）として、モデル校の教職員、三条市防災対策室、三条市教育委員会、県関連部局、事務局担当者等からなるワーキンググループを設置し、それぞれの有する経験や知見、情報等を活かしながら、意見交換を重ねてきました。

平成24年度に『試行版』を制作し、DVDとして県内各校に配布しました。平成25年度はモデル校において、洪水災害に関する防災教育の公開授業を行い、学校現場における活用性や教育効果等を検討・検証した上で『試行版』を改訂し、DVDで県内各校に配布しました。

さらに平成25年度は、他の災害（「津波災害」「地震災害」「土砂災害」「雪災害」）の防災教育プログラムの完成を踏まえ、表記方法や文章表現等を全体的に見直し、他の災害編と併せて、バインダー冊子及びDVDで県内各校及び関係機関等に配布しております。

<洪水災害ワーキンググループの構成>

座長	群馬大学理工学研究院 片田敏孝教授 (座長補佐) 群馬大学理工学研究院 金井昌信准教授
モデル校 (実践校)	三条市立第四中学校
モデル校	三条市立井栗小学校・旭小学校・保内小学校・須頃小学校・長沢小学校
市教育委員会	三条市教育委員会
市防災担当課	三条市総務部行政課防災対策室
新潟県関係課	防災企画課・河川管理課・教育庁保健体育課
事務局	株式会社アイ・ディー・エー (洪水災害編の事務局) 公益社団法人中越防災安全推進機構 地域防災力センター (事業全体の事務局)

新潟県防災教育プログラム
【洪水災害編】

平成26年2月（平成27年10月※一部データ修正）
公益財団法人 新潟県中越大震災復興基金
（協力：新潟県教育委員会、新潟県）

制作：公益社団法人 中越防災安全推進機構
地域防災力センター
